

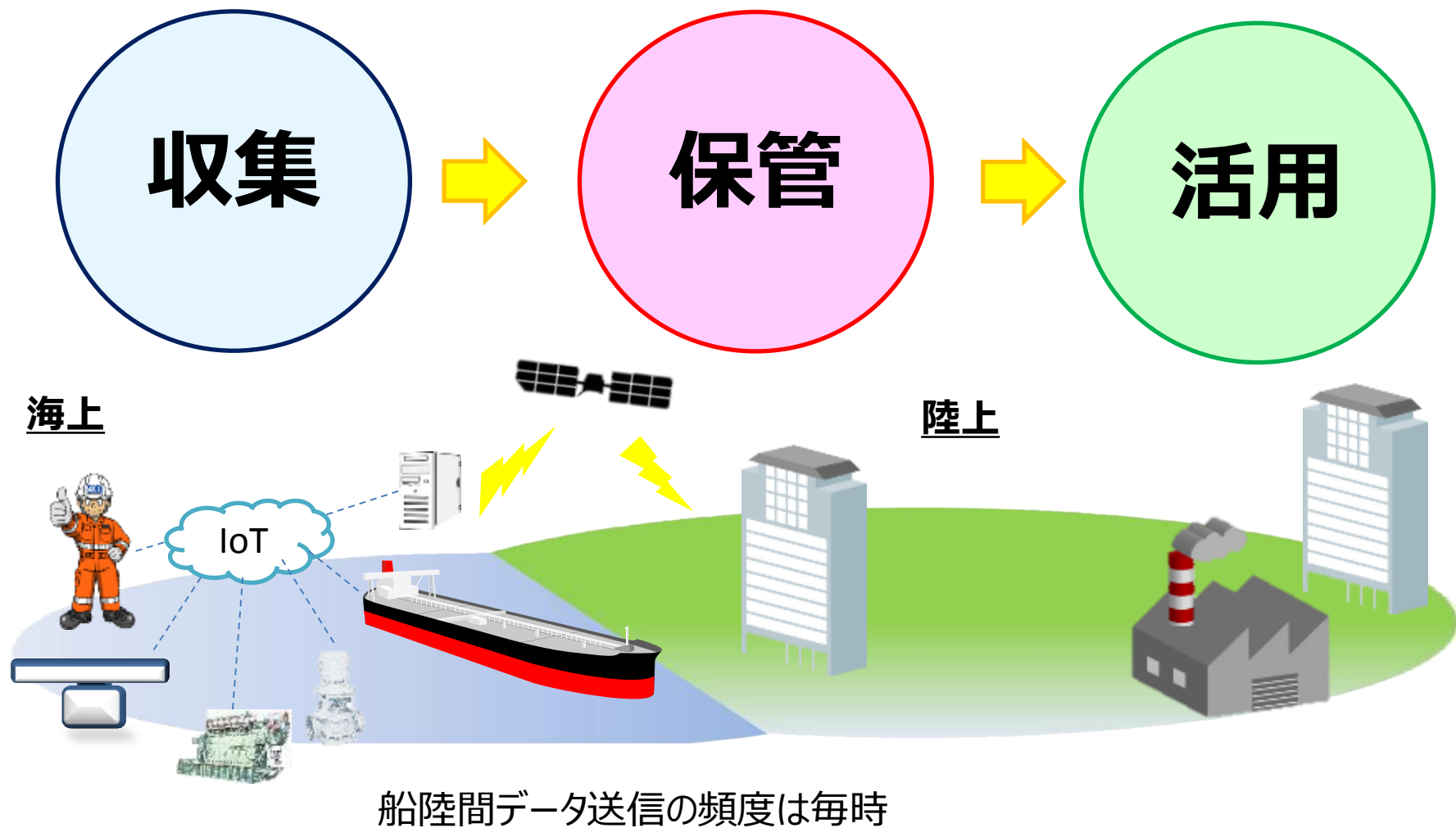
IoS（船のIoT）オープンプラットフォームに関するフォーラム

ShipDCへのオープンイノベーションハブとしての期待

2017年7月4日
株式会社商船三井
常務執行役員
川越 美一

海事産業の更なる発展に向けて、
運航データをどのように活用すればよいだろうか！？

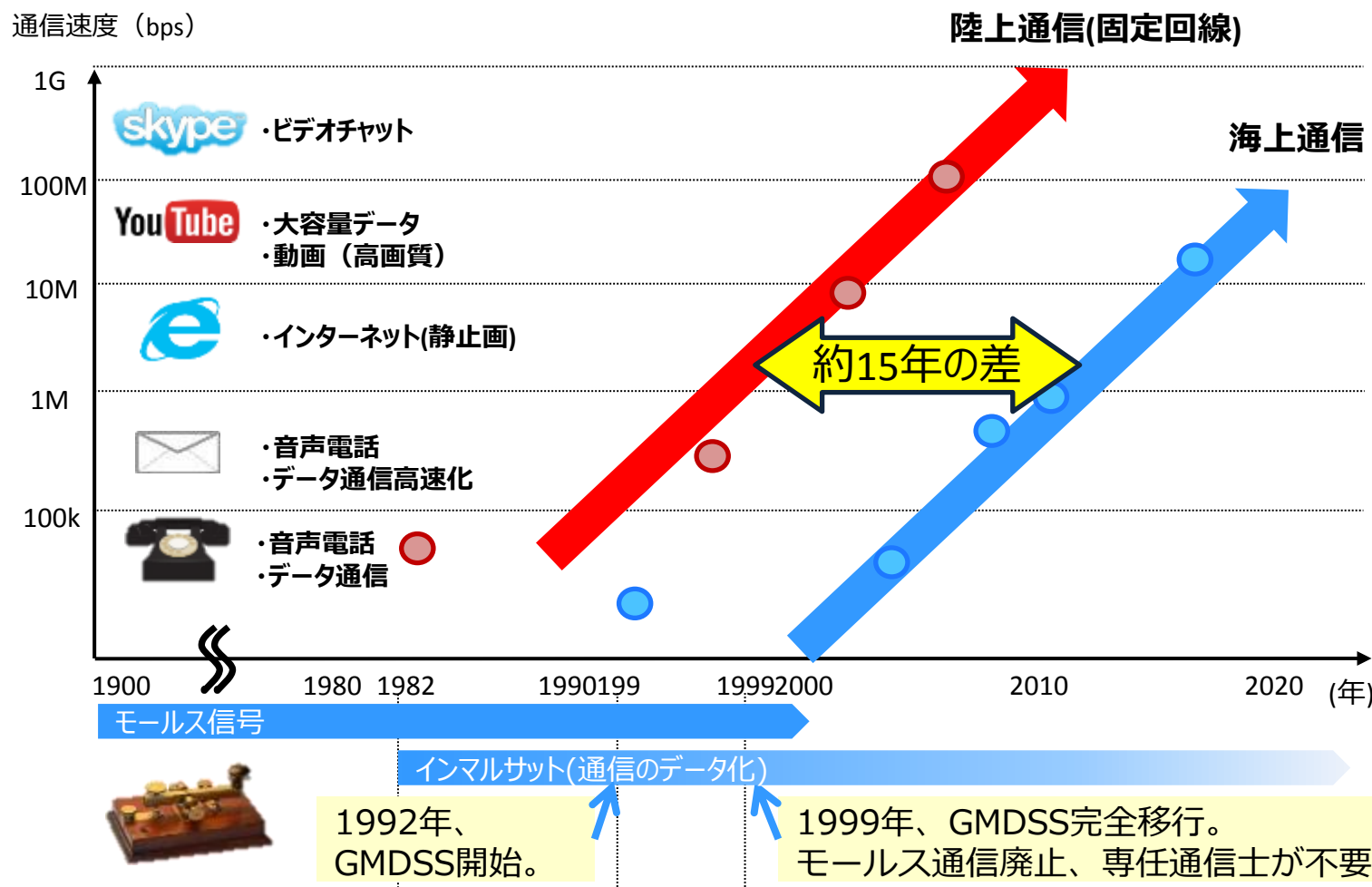
- 運航データの収集から活用までの流れ



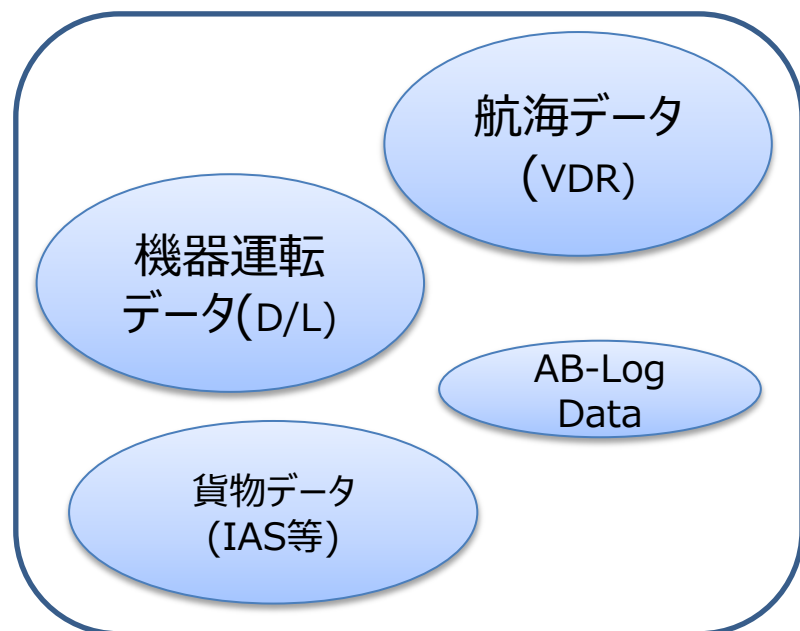
そもそも、船会社が収集する運航データとは・・・
はじめに通信インフラの発展から

通信インフラの発展

- 近年の**高速大容量通信の実現**により、**大量かつ多様な運航データをリアルタイムに収集**することが可能になってきている。



運航データ



- 通信インフラ発展に伴い、今後収集を見込む運航データ

海気象データ

画像・動画

有効活用

- ・燃費節減？
- ・ウェザールーティング？
- ・故障予兆診断？
- ・性能解析？
- ・etc..

どう有効活用する！？

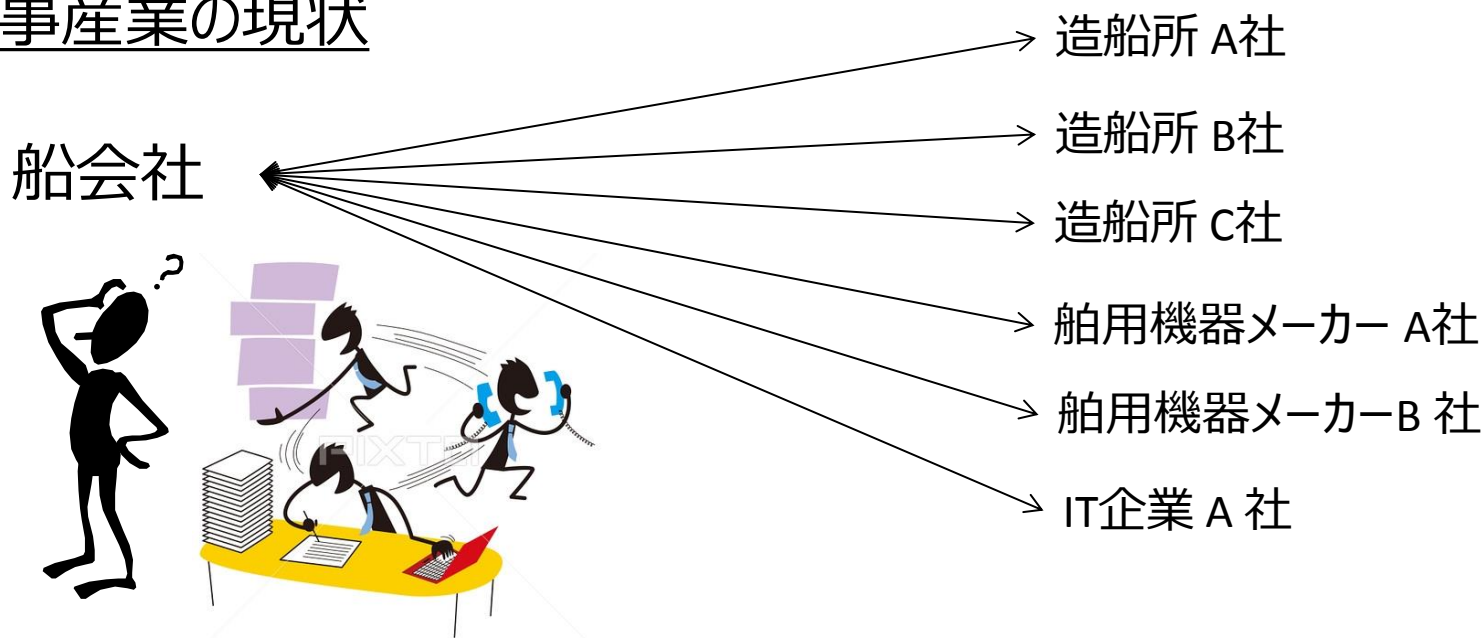
セキュリティ管理

- ・データ消失リスク
- ・クラウド管理費用
- ・etc..

どう管理する！？



● 海事産業の現状



積極的に各社にコンタクトを取り、ニーズ/シーズのマッチングを目指しているものの・・・

限られた人的リソースではコンタクトを取れる企業にも限りがある・・・
他業種の企業への開拓には時間がかかる・・・
固定観念を脱しきれず、大胆な発想の転換は難しい・・・

海事産業の殻を破るイノベーションを起こすための
仕掛けはないか！？

イノベーション創出の手法として、

大きな変革が急速に起こるIoT時代を迎えており、
同一産業のみでなく外部から技術やアイデアを取り込むことにより
新しい価値を作り出す『**オープンイノベーション**』が重要視され始めている。

●オープンイノベーションが有効な理由

- 技術、データ、ノウハウ、人脈を外部から取り入れることで、
固定観念を脱した新規製品・サービスの創出が期待できる。
- 産業分野の枠を超えた異業種間のニーズ/シーズを共有することにより、既存技術を他産業分野へ応用・展開することも期待できる。

ShipDCが、海事産業におけるオープンイノベーションハブとなることを期待

船会社

運航データ

ShipDC

第三者機関として、
データの公平な取扱い

データのISO標準化

徹底したセキュリティ管理

船会社にとっての新たな協
業先を発掘し、船会社との
橋渡しとなることを期待

海事産業

IT・通信

電機

航空・宇宙

ベンチャー企業

マッチングによるイノベーションの実現

●イノベーション創出の場としてのShipDCへの期待

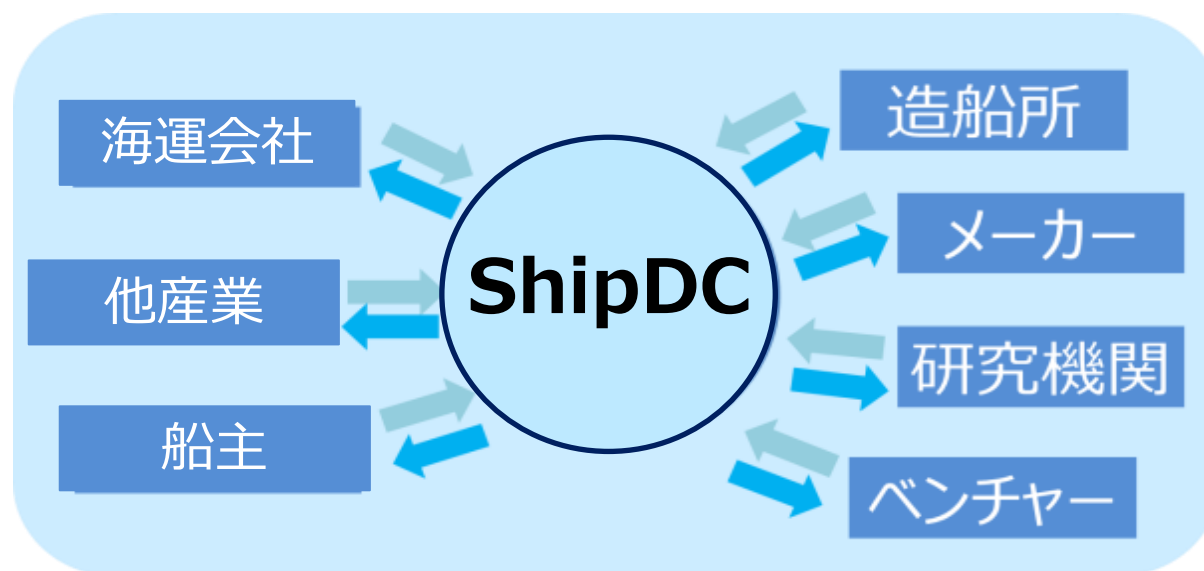
- ニーズ/シーズのマッチングの場となるオープンイノベーションハブとして機能してほしい(WIN-WINな関係になるよう橋渡しする)。
- 運航データの活用を通じて、異業種間のコラボレーションを行い、企業の枠を超えたイノベーション創出を目指したい。

● オープンイノベーションハブとして必要な機能

- 第三者機関としての公平なデータの取扱い
- データのISO標準化
- 徹底したセキュリティ管理
- 新たな協業先の発掘

『公平なセキュリティー管理』のもと、

『産業分野の枠を超えたあらゆる関係者間のマッチングの場』になること。



これからはShipDCを通じて、運航データの有効活用による

オープンイノベーションを実現していきたい。

ご清聴ありがとうございました